



# ほかほかタイム

6月19日の5時間目に、特別道徳講話「ほかほかタイム」として、女子サッカー選手の安藤梢様をお呼びして、「夢に向かって」という演題で講話をいただきました。

今日は私が世界一になるまで、どうやって夢に向かって進んできたかということをおみなさんにお話したいと思います。

私がサッカーを始めたのは、3才のときです。お父さんとボールをけて遊ぶのが大好きでした。私がサッカーを始めた頃は、女の子がサッカーをやるのは珍しかったのですが、幼稚園のときに男の子のサッカークラブに入れてもらいました。小学校では、豊郷南サッカー少年団に入って、男の子の中でサッカーをやっていました。そして小学校4年生のときに「サッカーの日本代表選手になって、世界一になる」という夢をもちました。



中学校に入ったとき、男子サッカー部に入るか、女子のサッカークラブに入るかとても悩みました。日本代表選手になるためには、レベルの高い男子と練習した方が成長できるのではないかと考えて男子のサッカー部に入りました。そして、高校1年生の終わりに、日本代表選手に選ばれました。でも、ワールドカップでは、3試合全部負けて予選で敗退してしまいました。そのときは、アメリカとは7対0、ドイツにも5対0で負け、全然歯が立ちませんでした。

日本代表にはなれたけれど、世界一になるという夢があったので、世界で戦うためにもっと自分を強くしなくてはいけないと考えて、いろいろな練習を始めました。例えば、200kgのバーベルを持ってスクワットをしたり、綱登りをして肩の力をつけたり、跳び箱から飛び降りてダッシュしたりする練習などです。

でも、北京オリンピックでは4位という結果に終わり、世界一になれずにごく悔しい思いをしました。どうしたら世界一になれるのか考え、ドイツに行くことにしました。ドイツは、世界ランキング2位のとても強い国です。選手はとても強靱な体を持っています。私は、最初強いドイツ人達にぶつかって負けてしまいましたが、毎日ドイツ人達の中で戦っていくうちに、強さを身につけることができました。その成果があって、やっと世界一になることができました。世界一になりたいという夢を持ってから20年かかりました。

ワールドカップを掲げた瞬間に思ったことは、世界一になる大きな夢をもって本当によかったということです。そして、あきらめずに続けることが大切だと感じました。今までうまくいかないときのことが多かったですが、うまくいかないときほど、自分が成長できるということ学びました。壁にぶつかったときに、自分の苦手なことから逃げずに、どうしたらできるようになるかということをしっかり考えて、一生懸命練習して成長することができました。また、自分一人では20年間夢を追い続けることはできなかつたと思います。仲間や先生、家族を大切にしてください。そして、好きなことや得意なことを大切に、夢に向かってチャレンジしていきましょう。

子ども達の感想は、裏面に載せてありますので、ご覧ください。

キ リ ト リ

保護者の皆様から、御意見・御感想がありましたら、お寄せください。

担当：大森

次号の道徳だよりに、匿名で御意見・御感想を掲載させていただくこともありますので、御了承ください。